シニアの皆さんがペットと安心して暮らせるまちづくりを進めています。

シニア世代になってもペットと一緒に安心して暮らせる環境づくりを目指し、地域全体で支え合う取り組みが進められています。心の豊かさと生きがいを育む、そんなまちを目指しています。

東京都立大学の星先生の研究[※1]では、シニア世代の犬猫の飼い主の方が、飼育していない方よりも、2年後の生存率が高く、特に犬猫のお世話をたくさんしている人ほど、長生きできることを報告しています。

シニアの方が犬と一緒に暮らすと、毎日お散歩に出かけたり、道中でいろいろな人とお話ししたりすることで、体も心も元気になり、認知症のリスクも減るといわれています。

動物病院では、シニアの飼い主からこんなお話をよく伺います。

「この子がいるから、毎日お散歩に出るようになったの」

「公園でたくさんのお友だちと会えて、飼い主さん同士でもおしゃべりするのが楽しいの」

「一緒に歩いていると、道ゆく人たちが声をかけてくれるのよ」

「この子のおかげで、毎日の生活にリズムができたの」

令和7年度の西東京市の介護保険給付費は174億4千万円となり、前年より2億4千万円増えています。

国立環境研究所の谷口優先生の研究では、犬と暮らすシニアの方は、フレイル（虚弱）のリスクが20％低く[※2]、認知症の発症リスクが40％低くなる[※3]とのこと。また、要介護や死亡に至るリスクも45％減り[※4]、介護保険の利用額も、ペットを飼っていない方の約半分[※4]になるというデータもあります。

ペットと一緒に安心して暮らせるまちづくりは、シニアの生活を豊かにするだけでなく、社会全体の介護負担を減らす可能性もあるのです。

でも、こんな心配もありますよね。

「年をとって、最後まで面倒を見られるかしら」

「もし自分が倒れたら、この子はどうなるの？」

「災害のときに一緒に避難できなかったら…」

また、動物病院では、「ペットが亡くなって寂しいけれど、もう年齢的に次は難しいのよね…」といった声もよく耳にします。

西東京市では、こうした不安に応えるために、市獣医師会や行政、保護団体が連携して、「ペットを飼えなくなったシニア世代の方から、飼いたい方へバトンをつなぐ」取り組みを話し合い始めています。

さらに、一人暮らしの方が急に倒れてしまったとき、ペットのことが心配で不安…そんな声にも応えられるように、「救急医療情報キット」に、かかりつけの動物病院を記入できる欄を設けました。西東京市と市獣医師会が協力して進めている取り組みです。

災害時の避難についても対策を進めています。

「ペットがいるから避難できない…」と迷ってしまうことがないように。大切な家族であるペットと一緒に安全に避難できるよう、市獣医師会の監修のもと「ペットの避難受け入れに関するガイドライン」を令和6年9月に作成しました。

現在、市内27か所の避難所のうち、19か所ではペットと一緒に建物内に避難できるようになっています。残りの避難所についても、順次対応を進めていく予定です。

これからも、西東京市はペットと暮らす皆さんが、安心して、笑顔で過ごせるまちを目指していきます。

1) Hoshi, Tnaji., et al. Am J Med Med Sci. 2017 7(3). 156-164
2) Taniguchi, Yu., et al. Sci Rsp. 2019 Dec 9;9(1):18604
3) Taniguchi, Yu., et al. Prev Med Pep. 2023 Oct 7:36:102465
4) Taniguchi, Yu., et al. PloS One. 2022 Feb 23;17(2):e0263791
4) Taniguchi, Yu., et al. PloS ONE. 2023 Jan 27;18(1):e0277049